



私達 B1 グループは、クライアントである白樺リゾートの社長の依頼で、白樺湖に万人集める、また追加課題として、都会の学生の修学旅行に白樺を選んでもらうためにはどうしたらいいかという課題を与えられました。白樺湖に万人集めるといふ課題は、実際に白樺湖に行った時に、社長の話を聞いてピーク時は家族連れの予約でいっぱいなので、ピーク以外で集めると言われたので、その方法として二つ考えました。

まず一つ目として家族層以外は、逆にピーク以外に来ることが多いと聞いたので、家族層だけでなくどの世代でも楽しめるものを考えること、もう一つは家族層以外の中から、特に学生を対象として、白樺に来たいと思わせるようなものを考えることです。そこで社員全員で考えた結果、具体的なアイデアしてどの世代でも楽しめるものは、天体観測と肝試し、学生に来たいと思わせるものは、自然を使った実験ツアーというものを考えました。

天体観測と肝試しについてですが、現在の池の平ホテルでは、夜やっているものがゲームコーナーやボウリング等で、夏休みの一部の期間では、縁日をやっているみたいですが、ピーク以外ではやっていません。つまりピーク以外ではどこにでもあるようなものばかりになり、結果池の平ホテルに泊まる必要があるのかという疑問が生まれました。そこで夜にしかできない自然を利用したイベント・企画で集客力と満足度をアップさせようと考えました。

まず夜のイベントとして天体観測の詳細説明をします。概要としては、ファミリーランドで遊んでいた後に池の平ホテルに泊まる前のイベントとして参加してもらうことで、内容はおすすめ観測ポイントが記されたパンフレットを配布し、望遠鏡や懐中電灯などの貸し出しを行い、白樺湖付近で自由に観測してもらいます。団体など説明が欲しいお客様に対しては、ガイドを付けて楽しんでいただくということが内容になります。

このイベントのメリットは、夜に行うのでホテルに一泊してくれる可能性が高いということや、天体観測に適した場所はあるということなので、このイベントにかかるコストは貸出用の望遠鏡やパンフレットの作成のみなのであまりかからないという面があります。また、星空は春夏秋冬で違うので気に入ってくれたお客様は年に4回来てくれるかもしれないということや、星を見るのはロマンチックなのでカップル層や若者層が増える可能性も考えられます。

次に肝試しの説明をします。なぜ肝試しかということ、白樺湖ファミリーランドには肝試しやお化け屋敷といった企画がないということがあります。そこで、白樺湖ファミリーランドのマスコットキャラクターのポタ君を使った「ポタ君救出作戦」というものを企画しました。ポタ君を使用する理由としては、ポタ君の知名度をアップしてたくさんの人に親しみをもって接してもらえたらいいなという理由で使用します。

主な企画内容は次のようになります。

・ポタ君が山に迷い込んだという話をしてお客さんに助けに行ってもらいたいという話をする。

・山道で脅かす。
・ポタ君の人形を回収してゴール
脅かし方の詳細

・人が迷彩服を着て脅かす。
・遠くで奇声や物音をさせる

なぜお化けではなく迷彩服を着た人が脅かすかというと、夜の山道ということもあり、本気で脅かしにいってしまうと大きな事故につながる可能性があるからです。そこで、お客さんに見つからず、その場の状況で臨機応変に対応できる迷彩服を着た人を採用しました。この夜のイベントなのですが天候については、外でやるイベントなので、雨が降った場合出来ないという欠点があります。なのでその場合は、屋内でこのイベント用の人員を使って、代替のイベントをやれば問題ないと考えます。

次に実験ツアーについての説明をします。子供たちに実験の楽しさを知ってもらい、将来、学生や大人になった時にリピーターになってもらえるのではないかと考えています。また実験をやることで理科大らしさを出せ、自分たちらしい個性的なことができるのではないかと考えました。

例として、私たちは「葉脈標本を作ろう」、「巨大シャボン玉を作ろう」と「水ロケットを飛ばそう」の3つを提案します。「葉脈標本」は、自然の葉を使うことで子供たちに自然科学の楽しさを知ってもらえ、葉にして持ち帰ってもらうことで思い出の品になると思います。「巨大シャボン玉を作ろう」と「水ロケットを飛ばそう」は、簡単にできる割に派手さがあり、子供向けです。また、屋外でできる実験なので、白樺の良さである自然の中で子供たちに楽しんでもらおうというのが狙いです。塾や、小学校に呼びかけることで人を集め、バスを手配するなど行きやすいようにも配慮しようと考えています。また、都会の学生の修学旅行に白樺を選んでもらうためにはどうしたらいいかという課題がありましたが、この企画はその課題をクリアするきっかけになると考えています。

今回の総合演習のまとめについて、夜間のイベントで宿泊していただいたお客様の満足度アップ、実験ツアーで自然体験とともに子供時代の思い出により、また行きたい!また行こうと思っただくことにより「リピーターの増加」を狙うことになり、今回の B チームのテーマ「1万人を白樺湖 池の平ホテルに集める」という目標達成となります。

総合演習、授業全体のまとめとして開始当初メンバー全員のやる気がなく、意見も積極的に出ることなく意欲がないまま中間発表はトップバッターで行いプレゼン自体にもまともではなく隙だらけの発表になってしまった。このことから、チーム全体に危機感が見え始め社長を筆頭にもう一度全員で話し合い少しでも明確で意義のあるものを作ろうと審査会当日までメンバー全員で協力しチームワークを発揮することで審査会を代表として勝ち進むことができました。今回の総合演習の授業を踏まえ他学科との交流や工学と経営の融合という観点からも有意義な時間を過ごすことができましたと思います。